

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100087		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループホーム大道が丘		
所在地	沖縄県那覇市大道94番地3 3F		
自己評価作成日	平成24年6月15日	評価結果市町村受理日	平成24年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=4790100087-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成24年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活が送れるように、利用者一人ひとりが心身の力をできるだけ発揮しながら、安全でより豊かな暮らしが楽しめるよう、多様な地域資源と協働し生活できるように努めています。

1階に地域交流センターを設置し、地域活動の場であると共に活用する地域住民の方が事業所を訪問し利用者や交流する等、地域で支え合う場となっている。利用者の状況に応じ訪問看護や訪問診療等と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。事業計画に消防の自主訓練と総合訓練(各2回)を位置づけ、消防機器取扱いの周知、消防署協力の避難訓練等実施し備蓄も含め災害対策に力を入れている。管理者は職員が「やる気と生きがいを持って働ける」環境整備や職員を育てることも心がけて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした本人らしい生活を支援します」 基本理念⇒時計⇒右 ミーティングや通常業務の際に目に付く場所に設置しています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、居間に掲示している。管理者は、日頃のケアを通して職員に「利用者本位なのか、職員本位なのか」を問いかけている。新人オリエンテーションやミーティングでは、理念について確認し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や地域交流する地域の皆様、近所の住民の皆様と機会があれば話をしたりコミュニケーションをとるようにしています。消防訓練や大きな行事には主旨を」説明して参加もお願いするようにしています。	近隣住民とは、日頃から挨拶を交わし、1階の地域交流室を地域活動の場として住民に提供している。また交流室を利用する方々や、ボランティアの学生等を事業所の夕涼み会に招いて交流し、地域の看護学生の実習の受け入れにも協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室を利用している住民の皆様認知症を知ってもらい勉強会、講話に参加していただきました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回確実に実施しながら、事業所からの報告や参加メンバーからの質問や意見、要望を取り入れながら事業運営が行えるように配慮しています。	会議は、併設事業所と合同で定期的開催している。会議では、利用者の状況や活動内容、外部評価結果等を報告し、介護保険法改正やインフルエンザ対策等意見交換している。会議には市担当者、地域代表者等が参加しているが、事業者の利用者や家族の参加が得られていない。	利用者や家族に運営推進会議の意義について周知に努め、参加に繋げていくことに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議による市町村担当との連携や地域那覇市包括支援センターからの相談や苦情等の対応に努めてその関係が維持発展できるように努めています。	市担当者とは、運営推進会議や電話等で事業所の実状を伝え情報交換している。また窓口に出向き、更新申請や生活保護申請等の手続きについての相談には、保護課と連携して対応する等協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを設置している。仮に身体拘束が必要な場合は、アセスメントや家族、本人の意向を十分に考慮して実施する事を踏まえて、話し合い、同意、評価が必要な事を踏まえて対応に努めています。	身体拘束をしない方針を掲げ、マニュアルも整備し定例会で学ぶ機会を設けている。現在、帰宅願望の強い利用者の安全確保やエスケープ防止策を介護計画書に位置付け、玄関や窓に施錠している。やむ得ず拘束を行う場合の態様等、一連の記録の作成には至っていない。	玄関(出入り口)の施錠は、指定基準において禁止行為(11)にあたり、身体拘束を行う場合の一連の手続きや代替方法の検討に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的な面で虐待に繋がらないような支援に努めています。身体的な面では、日々の業務の中で職員で身体上の確認、精神面では、表情や行動の把握に努めています。			

沖縄県(グループホーム 大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護マニュアルは冷蔵庫の横に設置している。現在のところ制度を活用する必要がある対象がいないが、今後の関係性などを見極めて必要な場合は適切に制度が利用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期契約時、ケアプラン更新により介護度に変更があった場合は、十分な時間をとって、説明を行う他、施設生活上で生じる可能性のある事や施設生活を継続していく為に必要な事は説明し理解して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や面会、電話連絡等の際に、利用者や家族の要望や意見を確認する事は必須の条件で、話しやすい雰囲気やアプローチも忘れてはいけません。1F意見箱も1週間に1回確認するようにしています。	利用者の要望は、日々のケアの中で問いかけながら把握している。家族の要望、はサービス担当者会議や面会時に声かけして聞いている。家族から車イスの利用者が負担なく受診できる皮膚科を紹介してほしいとの相談に往診に繋げる等対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングやOJT、個別面談で運営に関する意見提案を行えるようにしている。全体ミーティングを2ヶ月に1回や定期勉強会を開催できるように努めています。	職員の要望や意見は、申し送りやミーティング、個別面談で職員の意見を聞く機会を設けている。職員の勤務体制や就業環境の整備等の意見が出され、業務マニュアルの見直しに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断の実施、職員の勤務要望、やりがい等を把握して、本人や事業所の質が向上できるように働きかけている。給与水準については、法人内部で人事考課等の仕組みを構築しているところである。今後、適切に伝え職員の皆さんがやる気と生きがいをもって就労できるようその対応に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、施設内、法人内、他開催の勉強会に参加できるよう努めている。職員が新しい事を正しく学び、それを事業所で展開し、結果として事業所の質の向上を目指してます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設管理者や医療職との話し合いの機会もある。他施設とは、リーダー研修を通じて知り合ったメンバーと定期的に交流意見交換ができるようしています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状況を受け入れ、要望に耳を傾けて、施設の過ごし方や可能な対応を分かりやすく伝えて、共に本人が安心して施設を生活を送れるように勤めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際の、家族の状況(感情や関係性、生活の経過等)を受け入れ、要望に耳を傾けて、出来る限り専門用語を使用しないように可能な対応を分かりやすく伝えて、共に本人、家族が安心して施設を利用できるように勤めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談を行い、関わりを通じて、聞きにくい事や話しにくい事は段階的に話をしていく等の配慮に努めて、利用者及び家族と信頼関係が築けるようにその対応を丁寧に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	うやまいの気持ちを忘れずに、利用者の置かれている状況を受容して、寄り添い、思いやその人らしい生活を送れるようにその実現に向けて日々関わっていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会をできるだけ持ってもらい、生活状況を報告し、本人の要望等はその都度伝え、家族の関わりが切れないように3ヶ月に1回担当者会議に参加して共に支援していく関係づくりの維持向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の絆や関係性が途切れないように支援している。可能な限り、外泊や外出等が行えるようにしている。外出の際に、親戚や家族と関わりを持つ、盆、正月には外泊して自宅で過ごせるよう声かけに努めています。	家族や親戚の情報やケアの中での会話等を通して把握に努めている。年々地域社会との関係性の継続は困難になり、家族や親戚との関係性が主になっている。馴染みの散髪屋さんに連れて行きたいとの家族の声も聞かれ実現できるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	業務ミーティングや全体ミーティングの場や個別面談で利用者の個々の情報を共有している。なじみの時間、利用者、職員が共に関わり、孤立しないようにその場面に合わせた、声かけやコミュニケーションのフォローを行っている。		

沖縄県(グループホーム 大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、利用者や家族の皆さんが、適切な場所で安心して各種制度を活用できる方法等を提案、相談にのる事は必須である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者情報共有ノートの活用や、日々の活動や行動から利用者の望む事、その行動の意味を理解するように努める。上記の状況を踏まえて、アセスメントやモニタリングに組み込み、その支援について検討しています。	日々のケアのなかで声かけ思いの把握に努めている。困難な場合は行動や表情を観察して把握に努めている。情報共有ノートに利用者の訴えや気づき等を記載し、毎日全職員で確認し利用者の状況に沿った支援に繋げるよう職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの本人の生活歴や習慣、趣味や大切にしてきた事を家族から話を聞く、本人から聞く、活動時の反応や経過を把握していく事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の思いや行動から気付いた事をその都度、記録して、その有する能力や意欲を把握して、その人らしい生活の実現に向けて取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の認知症の行動障害とその原因と行動の意味を知る事で、本人の望んでいる生活に近づけるケアの実現に向けて努力しています。	サービス担当者会議には、利用者や家族、担当職員が参加し、「歌が好きなので音楽を聞かせてほしい」等意向を確認して介護計画書を作成している。ケアチェック表を活用してアセスメント、モニタリングを3か月毎に行い、定期的見直しと体調の変化等随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録(カルテ・送り届・排泄チェック表、情報共有ノート等)は確実に記載し、情報を共有してケアプランに沿って実践され、現状を次回に生かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、個別に対応を行わなければならないケースについては、通院や送迎等の支援を行い、現在のサービス提供に支障が出ないようにしています。		

沖縄県(グループホーム 大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域交流室を活用している。地域住民の皆さんと関わりが持てるよう行事運営上でその協力を呼びかけ、直接的な関わりを持ってもらえるようにもお願いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診(在宅総合診療所)を実施して、症状の変化があれば、日中は(主治医)夜間は(2F病棟)に連絡を行い、適切な医療が受けられるように支援しています。	入所時に本人や家族の了解を得て法人協力医をかかりつけ医とし、日頃から連携に努め月2回の訪問診療を支援している。他科受診は、家族対応としているが困難時は、送迎や同行、代行を支援している。受診時は、家族に情報提供書を託し結果の報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理の為に1週間に1回訪問看護が訪問し、病状や健康上の問題について相談、問題があれば、主治医に報告して適切な医療が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な場合は、利用者の特性やADLや認知症症状等の情報を提供し、入院時に適切な治療が行えるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では施設生活を利用者の身体状況に合わせて適切なケアの基に継続していく為に、病状が安定した利用者に限定して受け入れを行っている。重度化や、集団生活を営むのに支障が生じた(他害)場合は、速やかに適切な対応が可能な医療機関や施設を紹介しています。	重度化や終末期に向けては、入所時に「看取りに関する指針」について利用者や家族に説明し了解が得られている。利用者の健康状態の悪化や医療行為の必要性が生じた場合は、適切な医療機関や施設へと連絡調整して行く方針の下、事業所職員は、現時点で対応できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置して急変時、事故発生の際の対応は全職員で共有していますが、応急手当や初期対応の方法や訓練(実践)を今後学んでいけるよう実施していきたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2F、3F施設として訓練を年二回実施しています。近所の住民の皆様にも声かけを行い、消火器の使用や訓練の状況を見学していただきましたが、主体的な参加までには至りませんでした。	年2回、消防署や住民協力の下、併設事業所と合同で消防訓練を実施している。今年は、夜間想定を中心にした通報や避難誘導、消火器の取り扱いに取り組んでいる。スプリンクラー等消防設備も整い、点検も半年毎に実施し、法人全体で備蓄も行われている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という敬意を払い、その人生観や思いを尊重して、敬語で、その時の本人に好ましい言葉を工夫して安心して過ごせるように努めています。知りえた情報は個人情報保護同意書の範囲内で活用して守秘義務を遵守するように努めている。	管理者は、職員に利用者との対話を大切にし、敬語や解りやすい言葉遣いとプライバシーを損ねない声掛けの徹底を伝えている。利用者の尊厳が守られていない時は、定例会等で各自の気づきや振り返りを行い職員間で共有し、必要に応じ個人面談を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個別的な状況に合わせて支援する事を前提に意思表示が困難な方には身振り手振りや表情から求めている事を読み取り出来る限り、本人の求めている事が実現できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を尊重する、ホームでの生活を維持していく為に、現在の健康状態、体力を維持向上していく事は必須。それ以外は本人の個性を尊重してそのペースに合わせた過ごし方をフォローしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特別な場合には、本人の意思を確認して、身だしなみやおしゃれができるように声かけや介助するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲとりや簡単な炊事は共に行い、食事作りは準備の段階から利用者の皆さんが、目で見ておい、形を楽しめるような状況にあります。	食事は、職員が食材を購入し季節の野菜を取り入れ3食とも事業所で作っている。利用者は、年々重度化し出来る方にはモヤシの髭取りと職員と一緒に絞りの準備を行っている。利用者は、全員で同じテーブルを囲み、職員は食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事に関する記録を行い、本人の健康状態や嚥下の状態に合わせた調理の工夫や栄養摂取、水分摂取ができるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの一環として嚥下体操を実施、その機能の維持に努めて、食後は利用者の状況に合わせてうがいやブラッシング等の支援を行っている。		

沖縄県(グループホーム 大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況は記録して把握に努めている。利用者のさりげない、行動や言動から状況を読み取り、個別に声かけを行い、日中は時間帯で誘導する他に要望に応じて介助したりオムツの交換にあたっている。	利用者の排泄パターンを把握し、日中は声かけ誘導しトイレでの排泄を支援している。夜間は、自立歩行や訴えのある利用者には時間をみて声かけし、ポータブル使用やトイレへ誘導している。車イストイレの使用時は、カーテンを閉めプライバシーに配慮した見守りを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を行い、情報を共有している。飲食の内容に工夫や便座に座る事を施したり、予防に努めているが、それでもなお改善しない場合は、主治医に相談して下剤の処方をお願いします。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の気分や健康状態に合わせて個別に声かけや時間帯、曜日を工夫して実施できるように努めている。	入浴は、週2回を基本として計画書に位置づけているが、利用者の状況をみて曜日や時間帯等、柔軟に対応している。入浴拒否には、声かけの工夫や時間をずらしたり、家族の協力を得ながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠支援の一環として運動プログラムやレクリエーション等のプログラムを取り入れて生活にメリハリを持たせ安眠できるように支援しています。昼夜も落ち着いて過ごせるように冷暖房や生活音にも配慮して環境を整えるようにします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を介護カルテ保管として情報を共有しています。内服は施設管理として服用に誤り防止の為に職員間で確認し実施している。服薬管理上トラブルが生じるケースは、担当者会議で家族、本人に書面で同意を頂き、定期薬以外のとんぶく薬の手渡しの際に毎回、受取り時に本人署名をお願いします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でできそうな事、できている事、楽しんでやれている事は、可能な限りお願いしますと声かけして終わったら有難うと声かけをします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の環境の変化に対する適応能力等も踏まえて、ホームで外出の支援を計画して実施していくと共に、家族にも定期的に外出の機会等を提案して利用者の皆さんが気分転換やストレス解消が図れるように努力している。	年々重度化し、外出できる利用者が限られているが、日常的には、屋上で外気浴を楽しんでいる。併設事業所と合同で初詣やドライブでの遠出や外食を支援している。個別には、家族に電話や面会時に外出の働きかけを行っている。昨年の評価で外出支援が課題となった外出支援は継続して取り組んでいる。	

沖縄県(グループホーム 大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持して、使用する事はほとんどないが、習慣として金銭を所持していないと不安になる方については安心の為に、家族に話をして小額を所持させている。管理は状況に応じてフォロー。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況に合わせて不安感が強くなる方や家族と話をしたいと訴える方について、安心の為に家族に話をしてもらえるようお願いをしています。訴えがあった場合は、そのときの状況に合わせて電話が使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や月日の移り変わり曜日等が認識できるように工夫しています。バリアフリー・色・室内の温度、生活音に配慮している。	事業所内は明るく、広い廊下には利用者の作品や季節の飾りが施され、換気にも配慮している。トイレの交換用オムツ入れやカルテ等の収納棚を手作りで設置する等、環境整備に努めているが、脱衣所周辺には漂白剤等が置かれ安全面への配慮を要する所もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者ごとに専用の席を決めて体面でコミュニケーションを取れるように配慮しています。利用者間でトラブルが生じた場合は、速やかに介入して安心して過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者や家族の写真が飾っており、本人の好みの衣類や愛用の化粧品セットが持ち込まれている。利用者によっては椅子やソファースセットも配置できるように配慮しています。	居室には、ベッドとタンスが設置され、利用者の馴染みのミニソファや椅子、テーブル等の家具が持ち込まれている。また家族写真や利用者の作品等が飾られ、テレビを持ちこんでいる居室もあり、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーになっていて、安全自由に移動することができる。又、調理場はオール電化製品となっている。		